

共生 平和教育



中学校

高校

総合

地歴・公民

シリーズ証言記録 兵士たちの戦争

43分

沖縄戦

住民を巻き込んだ悲劇の戦場

(2008年放送)

この番組の良さ



沖縄戦の生々しい実態

平和学習を目的とした修学旅行で、本番組の舞台となる沖縄を目的地としている学校も多いことと思います。戦争について学習するには写真資料やビデオ、映画、演劇など様々な教材が利用されているかと思いますが、戦争を体験した人々による、生々しい「証言」を聞くことも、戦争の実態を知る上で大いに役立ちます。

元兵士たちの苦悩の証言

今の子どもたちにとって、太平洋戦争はもはや実感の伴わない歴史上の出来事かもしれません。戦争の悲惨さを伝えることは、重要なことでありながら、どこか他人事のように感じてしまいます。戦争の実態を知り、平和について考えをより一層深めていくには、戦争の悲惨さだけでなく、戦争当事者であった兵士たちの困惑や苦悩の現実を知る必要もあるのではないのでしょうか。

番組活用のポイント

平和学習の情感的側面

国内最大規模の地上戦の舞台であり、民間人の多くが犠牲になった沖縄。本番組はその沖縄戦を戦った元兵士たちの貴重な証言集です。教科書の歴史的事実や凄惨な現実を映した写真や映像は平和学習によく用いられ、歴史上の出来事を理解するうえでは非常に効果的です。しかし出来事の羅列だけで戦争について理解することはできません。実際に体験した人々の言葉からは、生身の人間としての悔しさや恐ろしさの情感を強く感じ取ることができます。

沖縄修学旅行に関連する学習の際には是非、事後学習で本番組を利用していただきたいと思います。平和学習は事前学習は盛んに行われていますが、事後学習もまた同様に重要であり、むしろ実感を伴った理解ができるのではないのでしょうか。現地の博物館やガマと呼ばれる自然の洞窟などを見学、体験した後だからこそ、戦争の傷跡、洞窟の暗く蒸し暑い状況などが思い起こされ、証言者のことばが身をもって理解できます。

元兵士たちの苦悩

戦争を二度と繰り返さないために、今の日本との考え方の違いを強調することは重要です。しかしまた、当時の兵士たちの状況を理解しようとするのも大切ではないのでしょうか。罪なく死んでいった民間人はもちろんのこと、兵士たちもまた、信じられないような凄惨な戦闘を強いられた被害者でもあったのです。

仲間が目の前で銃撃されたり、助けを求めてくる民間人を見過ごさざるを得なかった状況、そしてそれを今でも悔やみ続ける証言からは、想像を絶する苦しみが伝わってきます。

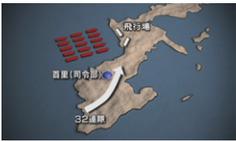
(永野 直)

学習展開例

授業時間 100分



沖縄戦の現実 元兵士たちの苦しみとはなにか

時間配分	学習活動	教師の支援
7分	① 沖縄修学旅行を終えて、見学した地での印象を思い出し、戦時中の人々の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ただ、単に見てきた内容を挙げるだけでなく、沖縄の人々の気持ちを想像するように促す。 ○民間人だけでなく、兵士たちの気持ちにも着目させ、番組の視聴に入る。
43分	<p>② 兵士たちの気持ちと、沖縄での見学地の情景を思い起こしながら、番組を視聴する。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県、北海道、沖縄県出身者で構成された陸軍歩兵第32連隊。 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ軍の上陸と、32連隊の移動の過程。 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・住民に助けを求められた時の状況を今でも思い起こし、悔やんでいる。 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・山形市霞城(かじょう)公園にある、戦友たちの慰霊碑に今でもお参りしている。 </div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○元兵士たちの証言を聞き、印象に残る言葉についてメモをとるように指示する。 ○19:00で一時停止。 ○沖縄戦の状況を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年3月、アメリカ軍兵士54万人が沖縄中部へ侵攻。 ・戦闘1カ月で日本兵10万のうち、6万4千人が戦死。 ・首里にとどまるか、南部に移動して持久戦を続けるかの選択を迫られ、戦闘継続が決定する。 ・すでに敗戦は決定的であったが、大本営の決定には逆らうことは不可能であった。 ・6月、沖縄全土が制圧され、軍の幹部は自決し始めたが、最後の1人まで戦えとの命令が下る。 ・8月15日敗戦。しかし、壕の中の兵士に敗戦が伝えられたのは8月下旬であった。 ・9月3日武装解除。生きていたのは32連隊3千人のうち、1割以下であった。 ○番組を再開する。以下のような言葉から、兵士たちの苦悩を感じ取らせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・私の話をどこまで信じられますか？ ・兵士としての誇りなどなかった、ただただ援軍が来ないことが悔しかった。 ・兵隊さんは住民を守らず何を守っているのか、と言われた。 ・ガマの入り口に民間人を置いて、盾にした。 ・何の希望もなかった。情けなくて毎日泣いていた。 ・本当のことは今でも言えない。思い出したくない。
50分	<p>③ ビデオを見たのち、戦争当時の兵士たちの気持ち、現在の感情などについて考える。</p> <p>④ メモをもとに、感想文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的な出来事としてだけでなく、人々の気持ちを考えることで、戦争について自らの感情をもって考えさせたい。 ○戦争で亡くなった人々とともに、生き残った人々は今でも苦しんでいることを理解する。戦争がどれだけの傷跡を残しているのかを考えながら、感想文を書くようにする。